

Ohmi Net

あうみネット

あうみネット

Communication Paper for Voluntary Network in Ohmi

人と人を結ぶ♥ 作 杉尾尚子
ネットストーリー

“総合的な学習の時間「森を守ろう」”編



シリーズ～NPOへの素朴な疑問～<第8回>
**介護保険制度に見る
NPOと企業の違い**

市民&企業&行政ネット

め・と・て・とねっと

株式会社フタバヤ

高齢者の足となる送迎バス、お持ち帰り可能な買い物かごetc...
便利で楽しく、プラス人や環境にやさしいスーパーを追求。

あうみネット **リレーエッセイ**

● **トピックス**

**「総合的な学習の時間」と
NPOのかかわり**

● **スポットライト**

私たちががんばってます!NPO

- 子どもの美術教育をサポートする会
- メダカの学校小田分校
- 田上郷土史料館

伝言板 7月・8月

● **センターインフォメーション**

淡海ネットワークサロンを開催しませんか?
わくわく市民活動
ゼミナール開講
ほか

June
No. 30
2002・7

淡海ネットワークセンター

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

シリーズ～NPOへの素朴な疑問～

[NPOって ナニ?]

第8回 介護保険制度に見るNPOと企業の違い

介護保険は、これまでの社会福祉のシステムを「契約」「サービスの利用」という形に変えた。介護保険の指定サービス事業者になるには法人格があればよく、実際、株式会社・有限会社という営利法人からNPO法人、協同組合、社会福祉法人といった非営利法人までいろいろな形態の法人が参入している。

利用者からすれば、営利非営利に関係なく、良質のサービスが提供されればいいということになるのだが、ミッション志向のNPOと利潤追求の企業が共存しうるのはなぜかという疑問もわいてくる。

そもそも介護保険が始まる時に、NPO側が危惧していたことがある。住民参加型在宅福祉サービスを行ってきたNPOは、企業との競争に負け、自分のところの職員を企業にとられ、介護業界では企業がNPOを駆逐してしまうのではないかということである。しかし実際には、企業の撤退はあってもNPOが撤退したという話は聞いたことがない。理由は簡単である。企業論理からすれば、儲からないこと、もっと言えば損を出してまでは続けられないのである。一方NPOは、地域の課題解決のために始めるというパターンが多いので、いいことだとは言えないが、少々の損はいとわない。それに加え、寄附金を集めたり、有給スタッフ以外のボランティアにも関わってもらえるという企業にできない利点もある。

実際の介護の現場を見ると、生き残りのために企業も送迎などの儲からない部分を担っているところもあるし、NPOもNPOでしかできないきめ細かいサービスに取り組んでいる。いい意味での競争が行われ、重層な仕組みができあがりつつあると言えるだろう。

一般的にNPOはミッション志向の団体で、企業は利潤追求の組織というように、NPOと企業の違いを挙げるのは簡単だが、その境界はだんだんグレーになってきているのかもしれない。その意味では、企業にもミッションがないと生き残れない時代になっている。

(市民熱人)



今年24時間テレビ「愛は地球を救う」を近江店で開催。



「まいばすけっと」は口コミで増え、現在3店舗で2万人が利用。



高齢者の足となる「ふたばす」号は彦根市内はもとより、甲良・豊郷・多賀方面なども巡る。



アイデアマンの中川店長（彦根店）。9年前、きりんの試乗会をして子どもたちを大いに湧かせた。

めとてとねい

市民&企業&行政ねごと

高齢者の足となる送迎バス、お持ち帰り可能な買い物かごetc.
 便利で楽しく、プラス人や環境にやさしいスーパーを追求。

株式会社フタバヤ

昭和39年創業の（株）フタバヤ（中川志津子代表）は長浜店を皮切りに、近江彦根店と3店舗の食品スーパーを開業。2年前、市内巡回型の無料送迎バスを彦根店で始めました。名付けて「ふれあい社交バス・ふたばす」号。近江バスから専用バスをチャーターし、週4日毎日2便合計8便、彦根市内や近隣の町を巡回し、フタバヤで約50分の買い物をして帰ることができる仕組み。乗車時に会員カードを提示すれば近江バスの停留所で乗車可能です。

全国のスーパーに先駆けて持ち帰りカゴの導入や牛乳パック、空き缶、ペットボトルの回収を行っています。その名も「そのままバスケット」



クーポン券がもらえる空き缶・ペットボトル回収機

「家に車があっても息子夫婦のものだったり、天気の悪い日や徒歩、自転車では一苦労というときに気軽に利用してもらえれば」と発案者の中川紀久男店長。

「宅配業者も考えましたが、人と人がふれあいながら買い物を楽しんでほしい」とか。今では、家に引きこもりがちな高齢者や車に乗らない主婦らの足として、また、日常の会話が少ない高齢者のみならずから、「バスの中でいろいろと会話が楽しめる」との声もあり、毎月延べ5000名近い方の利用があるそうです。

また、環境への取り組みにも熱心で、

「ゴミ袋を一枚プレゼントして顧客に還元しています。さらに毎年、フタバヤでは各店持ち回りで24時間テレビ「愛は地球を救う」の募金活動に協力、同時開催の「ちびっこ天国納涼まつり」も好評を得ています。このように、人と人のふれあいを大切に、環境にやさしいフタバヤの元気な経営姿勢は、幅広い年齢層の顧客の信頼と笑顔を獲得しています。

株式会社フタバヤ（本部）
 TEL.0749-52-0467 FAX.0749-52-0518 <http://www.biwacity.com/futabaya/>

「世代を超えて落語を楽しむ会」

心をむすんで* リレーエッセイ

その一つで今私達が熱中しているのが、昨年落語家の桂文我師匠に出会ってからスタートした「おやこ寄席」です。文我師匠は大人だけでなく子どもにも大変人気のある落語の名人です。子どもたちがあのように大声で笑いあいながら育てば、きつといじめや犯罪とも無縁の世の中になるのではないかと、実行委員一同ささやかな期待をもちながら、はりきって準備にいそしんでおります。公演は年に一回6月に行っています。

自然からの贈り物である木で作られたすばらしいおもちゃを、滋賀の皆さんにも身近に感じ取ってもらいたいという思いと、「子育てって楽しい」とお母さん方に感じてもらえるように、10年前大津に「ころぼっくるの家」というスペースをつくりました。

ころぼっくるの家では、優れたデザインの主にもドイツ製の玩具や遊具を販売する一方で、子どもたちやお母さんが楽しんで参加できるさまざまな企画を行っています。



ころぼっくるの家
 赤坂 康子さん

今回は「しなやかシニア」代表 佐藤明子さんです。

TOPICS

「総合的な学習の時間」とNPOのかかわり

この4月から小中高学校で導入された総合的な学習の時間は、社会体験学習や、地域の人々の参加協力による学習を取り入れるよう配慮されています。地域のNPOがどのような形で総合的な学習の時間に関わっていくことができるのか。子どもたちと関わっている県内のNPO団体のお二人にお話を伺いました。

インタビュアー／川勝六四（淡海ネットワークセンター事務局）

■総合的な学習の時間は「生きる力をつくる教育」をねらいとしています。今までの学校教育の中では無理だったのでしょうか。

井阪 もともと、学校教育は「生きる力」を追求するものです。しかし、学校は「箱」というイメージがあって、一歩外に出られない先生たちが多くいます。子どもをレールに乗せてしまう。学力アップのために貢献してきたが、一方で行き詰まっている部分があって、「もう一度体験活動を取り戻しましょう」ということをやっているんです。もうひとつは、地域の教育力がかなり落ちてしまったということです。かつて地域行事の中心は中高生だったのですが、今は小学生に移ってきて、それも結局は親が全てやっています。子どもはただ見ているだけなんです。

関田 都心部へ行くと、子どもたちが近

草の根農業小学校代表

関田 哲さん●プロフィール

福井県和泉村でにわとり牧場を始めたのをきっかけに、「農業小学校をつくる会」（1994年）を設立。翌年滋賀に移り栗東市（1996年）と朽木村（1999年）に日曜農業体験教室「草の根農業小学校」を開設。2000年の夏に文部科学省委託事業である「子ども長期自然体験村」（13泊14日）を朽木村で開催。2001年には「くつき子ども村」を開設する。滋賀県教育委員会「こどもキャンパス」の実行委員でもある。栗東市在住。



NPOの人たちは目標を持って活動しています。そういう意味では提言していける部分があると思います。

■草の根農業小学校代表

【問い合わせ】TEL&FAX.077-558-0339

E-Mail: kusanone@sweet.ocn.ne.jp

<ホームページ: <http://www.mcc.spacetown.ne.jp/kusanone/index.htm>>

所の人と共同して何かをするとか、作業するという機会がなかなかありません。従来の村としての機能がなくなってきましたね。古い形の村の衰退には、やはり必然性があるわけで、私は村が持っている機能の有効な部分をもう一度意図的に再構築していきたいと思っています。

井阪 農業体験は作業なり生活なりがずっと連続しているわけですが、学校は非連続なんです。カリキュラムでは連続していても、子どもたちの体験ということでは、ある部分だけがボン、ボンと飛んでしまっていて、それを無理矢理つなげると非連続になってしまう。非連続だと、イベントはできてもそこに込められている意味がつかみにくく、価値観ができて

くいです。総合的な学習は、本当は連続性を持たせないといけないんです。その力量が、教師に問われているわけです。関田 蒲生野考現倶楽部と私がやっていることは「学習のためのフィールドづくり」という共通点があります。教育と学習を比較すると、教育には教育者がいつも一段高いところにいるわけですが、学習には、学習を促す者と学習する者がほぼ同じフィールドにいます。場合によっては、学習を促す者がいなくても、学習を促すフィールドがあったり学習を促す契機があったりすると、学習する者が自分で学習していくわけです。だから自発性という意味でだいぶ違う。総合的な学習というのは結局、どこまで自発的に学習できるかなので、教育現場ではとまどいがあると思います。でも、失敗を恐れずにやってみてほしい。失敗から学ぶことも大切だと思います。

蒲生野考現倶楽部代表

井阪 尚司さん●プロフィール

三世交代と住民参加を軸に「ソレイケため池探偵団」や「ソレイケみぞっこ探検隊」等を編成して、「蒲生野における身近な水と生活文化」の調査研究を行っている。水環境学習を柱にし、社会教育に積極的に参加。実践活動は、探検カード調査、ゴミの種類記録、周辺のクリーン作戦など。その締めくくりにしてレポートを作成し、寸劇で「水浄化」と題して環境学習の発表を行なっている。日野町在住。



学校の非連続なところをNPOによって連続性をもたせていくと、全体がつながっていくのではないのでしょうか。



■蒲生野考現倶楽部
【問い合わせ/TEL.0748-52-5352 FAX.0748-55-0328 (あたらしや学問所)】

■お二人は総合的な学習の時間にとどのような形でかかわっていらっしゃるのですか。

井阪 学校が土日休みになるので、社会教育に視点をおいてメニュー揃えをしている段階です。月曜日から金曜日の学校のカリキュラムに入るのには難しいですね。学校というのとは他からのプログラムを取り入れる余裕がありませんし、教師には限られた時間でカリキュラムをこなすという効率性を求められていますので、自然学習の連続性というものは「ムダ」と見られるわけです。

関田 草の根農業小学校は社会教育という位置づけなので、学校にはなく一般に呼びかけています。農業は少なくとも種をまいて、育てて、収穫して、食べるという体系を大事にしていますから、連続性のある授業でなければ難しいですね。学校側がカリキュラムを組んで来るという姿勢があれば、大いに歓迎します。

今、私は生涯学習課の委員をやっているんですが、その委員会でも県下の状況をお聞きしていると、最近社会教育と学校教育がだいぶタイアップしてきているという印象を持っているので、今後に期待しています。

■今後、総合的な学習の時間はどう進むとお考えですか。また、NPOはどのように関わってほしいと思われませんか。

井阪 展望すれば、今の学校教育はこのままいくでしょう。自由にできる総合的な学習の時間は、最初はいろんな取り組みが花開くと思うんですが、そのうち集約されてパターン化されていくと思います。「こなす」授業になっていく。子どもが学んだ姿がそこにあるかどうかポイントで、子どもの成長や学ぶ姿を記録できる教師にならないといけないと思います。

ますね。NPOの方たちは、自分という人間がこの社会の中で何ができるかを問いつけながらやっているわけでしょう。そのノウハウをいかに学校が取り入れるか、NPOと学校がいかにパートナーシップでやっていくかが課題だと思います。

関田 教育は出発点によってすごく違ってきます。今は日本全体がどっちへ行くのかわからないという状態ですし、大人たちも一人ひとり、「なぜ生きていくのか」という問いにはっきり答えられない状態になっています。だから子どもたちに対して、何のために、何を教えるのかという根本的なところがおさえられていません。NPOの人たちは目標を持って活動しています。そういう意味で提言していける部分があると思います。すでに、図書館とか公民館という社会教育と学校教育がリンクし始めています。その次の段階として、学校教育の側から要請があれば、NPO側の準備はで

きているということです。

井阪 これからは学校と地域やNPOをつなぐ役割をしてくれる地域のコーディネーターの役割が大きくなってくるでしょうね。学校の非連続なところをNPOによって連続性を持たせていくと、全体がつながっていくのではないかと思います。

◇総合的な学習の時間に対して、NPOがカリキュラムを組む段階から入っていくというのはもっと先かもしれませんが、学校が外部の人を受け入れるようになった、という部分は成果ですね。子どもたちから「こういうのを学びたい」という声があったときに、先生がどれだけメニューを持っているかということが、この総合的な学習の時間が成功するかどうかの力ギになってくるのではないのでしょうか。

「総合的な学習の時間」について 滋賀県教育委員会 学校教育課にお聞きしました

Q.「総合的な学習の時間」ができた背景は？

A. 教育を取り巻く様々な課題や社会環境の変化があり、これからの新しい時代の教育のあり方が問われる中で、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を育てるために設けられました。

Q.「総合的な学習の時間」のねらいは？

A. 総合的な学習の時間は、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育て、学び方やものの考え方を身につけ、問題解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすることをねらいとしています。そのため、各学校は、地域や学校、児童の実態等に応じて、横断的、総合的な学習や児童の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行っています。

学習を進めるにあたっては、自然体験やボランティア活動などの体験的な学習や、地域の人々の参加協力を得たり、地域の自然や施設を積極的に活用したりするなど工夫を生かした学習が行われるよう配慮しています。

私たちががんばっています！

NPO

どっつうふうにしたら、もっとみんながイキイキと元気に暮らせるか—そんな素敵な夢を現実のものにするために、日夜奮闘しているNPOの皆さん。環境・福祉・子ども・まちづくりetc. . . . 滋賀県に新しい風をおくるフレッシュな市民活動をご紹介します。

美術館や博物館と

学校をつなぐコーディネーター

●子どもの美術教育をサポートする会

「子どもたちの輝く笑顔を見たら先生も専門家も芸術家も動かざるをえないでしょう」と語るのは、「子どもの美術教育をサポートする会」メンバーの津屋裕子さん。東京在住の際、世田谷美術館のボランティアに参加。そこで「子どもも大人も素直な自分と向き合い、表現できたときに本当に楽しいんだ」と言うことを実感。ここでの体験が津屋さんのその後の活動の原点になります。

その後、滋賀に引っ越し、滋賀県立近代美術館のボランティアに参加。そこで活発に美術教育の普及に力を注いでいるスタッフとの出会いがあり、また琵琶湖博物館の『びわ湖・ミュージアムスクール』の担当者よりその授業づくりを学び、さらに草津市で実施されている『地域協働合校』に参加。そこでも「上質で洗練された本物と子ども



もたちを会わせたい」と、先駆的な美術教育を実践されている馬場校長先生との出会いがあり、県立近代美術館のスタッフの協力で、アメリカで開発された「アートゲーム」

コーディネーターの役割をしているのが、「子どもの美術教育をサポートする会」なのです。「教室にはいろんな子どもたちがいるけれど、この授業が終わったときには独りぼっちの子どもはいないんですよ」会がサポートする授業では、地域の人々や保護者もいつの間にか参加しています。今後の抱負について、

「この子どもたちを囲むムーブメントの渦の中でさらにボランティアならではの役割を生かして活動を進めていきたいですね」

(編集ボランティア ア・谷口久美子)



子どもの美術教育をサポートする会

●代表の津屋祐子さん（左）と中川正子さん（右）

代表●津屋祐子
連絡先●大津市大童5-30-3
TEL&FAX●077-543-8569（津屋）
設立●2000年1月
会員●15名

●陶芸家を呼んでの授業風景。
（草津市立老上小学にて）

その後、県立陶芸の森美術館、MIHOMUSEUMの学芸員や芸術家の方々も好意的に参加協力し、「アートゲーム」の他に「焼き物ってふしぎだな」「古代文明の文字に挑戦」などなど試行錯誤を繰り返しながら滋賀発の授業が次々に実現しています。このように、美術館や博物館と学校をつなぐ



●美術館の学芸員が博士に变身してアートゲームをする風景。（草津市立老上小学にて）

S
P
O
T
L
I
G
H
T

自治会から独立し、メダカ池を軸に「総合的な学習の時間」に取り組む。

●メダカの学校小田分校

「メダカ池を見に行きませんか？」メダカの学校小田分校の瀧口さんにお会いするやいなや、取材に向いた私たちを、20メートル四方位のメダカ池に案内してくださいました。メダカ池は町民の方から提供のあった休耕田を利用して造られました。池の水草に隠れて泳ぐたくさんのメダカたちは、日野川改修工事で影響を受ける小川から一時的に保護されたもの。「今では、町内の名所になりました。これまで集

合場所と言えば小田神社でしたが、近頃はメダカ池だつたりします。また、子ども達の通学路になつているので、夏はメダカ池で道草をしながら帰る子もいるんです」と瀧口さんは嬉しそうに話されます。



●昨年5月、約80名の方によって作られたメダカ池。

メダカの学校小田分校のはじまりは、小田町自治会でした。しかし自治会活動では範囲が限られ、「やりたいことをやりたい人がやろう」と2000年に独立。ネットワークが広がって行く中、地元北里小学校と連携して総

合的な学習の時間に取り組みようになりました。日野川源流をたどる日野川探検や、日野川メダカシンポジウムを開催するなど、活動はどんどん広がっています。

そんな中でも、地元の子どもたちに自然を知ってもらおうという初心は忘れないようにしています。今後は、この活動で知った田んぼの不耕起栽培に取り組んでみたいと瀧口さんは言います。

「トンボが飛び回り、自然の力でできる田んぼづくりをしたい」と熱く語る瀧口さん。そのお話しは大変分かりやすく、身近な環境の中には発見がいっぱいあるんだなあと感じました。(編集ボランティア 青木 伸子)

メダカの学校小田分校

代表●高畑正宏
連絡先●近江八幡市小田町146
TEL&FAX●0748-36-8784 (瀧口)
URL●http://www.biwa.ne.jp/~takiyan/
設立●2000年4月
会員●60名



●「めだかのおっちゃん」で親しまれている瀧口喜三男さん。

菜の花栽培、米作り、水の生き物調べ、みそ作り、紙すき…大津市の上田上小学校が今年の総合的な学習の時間に行う課題予定です。そしてこれらの学習の手助けをしているのが、上田郷土資料館の館長である東郷征史さんはじめ、地域に暮らす人々です。

上田郷土史料館は、大切なものが忘れ去られないようにと中学教師であった東郷さんが在職中から、地元の人々の協力で収集した民具がたくさん並ぶ地元の史料館。子どもたちはここで昔の道具にふれるだけでなく、米作りを学び、昔の脱穀機を使った脱穀作業やわら細工、地元の特産である菜の花漬けやつるし柿作りなどを体験します。

●上田上小で教壇に立つ東郷さん。



講師は農家のお年寄りや婦人会の人など。総合的な学習が実施される何年も前から、上田上の小学生たちはこうして地域で学んできました。

子どもたちとの交流のきっかけは10年前。東郷さんが15年近く続けているホテルの保護活動を知り、子どもたちがホテルを

●ホテルの保護活動やメダカの繁殖にも取り組んでいる。



でも目にするのが少なくなったホテル、その生態について学び、今では餌になるカワニナ取りは子どもたちの楽しい仕事になりました。そして東郷さんがもうひとつ取り組んでいるのがメダカの繁殖。どうしてメダカがいなくなったか、どうしたら育つのかを学ぶなど、子どもたちの生きた教材となっています。

商店や工場、雁皮紙を作る紙すき工房、老人ホームや婦人会、農家のお年寄りから産婆さんまで、地域の人たちの協力で子どもたちはさまざまな分野の学習をします。少子化で小学生は年々少なくなってきましたが、だからこそ子どもたちを大切に思い、故郷の良さを知ってもらいたいと地域の人々は願っています。

(編集ボランティア 松井由美子)

田上郷土史料館

代表●東郷征史
連絡先●大津市上田上牧町638
TEL●077-549-0369
設立●1967年
会員●地域住民

子どもたちの数は少なくなっていくけど、生きた教材はまだ残っています。

●田上郷土史料館

淡海ネットワークサロンを開催しませんか？

～サロン企画提案・共催者募集！！～

淡海ネットワークセンターでは、市民活動のきっかけや交流などをめざし、ゲストを交えて20人くらいで語り合う「淡海ネットワークサロン」を県内各地で開催しています。一緒にサロンを共催したいと思われる団体・個人の方は、企画書（様式任意）を添えてセンターまでお申し込み下さい。

【サロンの条件】

会場費やゲストの謝礼（1万円）・交通費（実費）はセンターが負担します。センターと・ゲスト（なるべく県内の方）・参加者（特定の会員だけを対象にしたものはダメ）・お茶菓子等は参加者負担・企画者には場所、日時の選定、参加者募集などの協力をお願いします。

おでかけ湖岸通り77番地 ～inピアザ淡海～

F.M.滋賀「おでかけ湖岸通り77番地」の公開放送が淡海ネットワークセンターで行われます。ぜひお越し下さい。

日時：7月26日（金）
7：30～15：00

わくわく市民活動ゼミナール開講

【第2回】

「お寺は古くて新しいNPOセンターだ～お寺とボランティアと地域社会の新しい関係づくり～」

講師：高橋卓志さん
（長野県NPOセンター代表理事）

日時：7月10日（水）
19：00～21：00

場所：ウイングプラザ（栗東市商工会）
コミュニティスペース

【第3回】

「電子ネットワークとNPO～藤前干潟保全に学ぶ情報社会の広報戦略」（仮）

講師：松浦さと子さん
（龍谷大学経済学部助教）

日時：7月30日（火）
19：00～21：00

場所：くさつまづくりセンター
（旧ウイングパレスくさつま）
309会議室

☆受講ご希望の方はセンターまでお申し込み下さい。

編集後記

おうみネットの読者だった私が、初めて、取材する立場になりました。読者の頃は「ネタ切れしないのかな」と思ったのですが、滋賀県は人材の宝庫なんです。これからの出会いが楽しみです。
（編集ボランティア・青木）

「メダカは流れのない、水が溜まっているとこでないといやらへんで」と、アミを持って私たちを案内してくれた東郷さん。こんなおっちゃんが昔はたくさんいたもんです。童心にかえって畦を歩くと、昔見た風景がよみがえりました。大人たちがさえ楽しくなってしまうメダカ探し、今の子供たちも味わえるという、田上の自然に感謝！
（編集ボランティア・松井）

それぞれの違いを認め合い、みんなOKだよと受け入れる場が一つでも子どもたちの身近にあれば、どの子どもも本来持っている力を発揮できる。そんな場づくりを私も。津屋さんに出会えてますます思いを固くしました。
（編集ボランティア・谷口）

ふたつの視点から
活動を見つめたい

湖国21世紀記念事業では、多くの方にお世話になりました。こちらに移っても引き続き、自らの活動とサポートする業務の両視点を持って働きたいと思います。よろしく。



事務局
木村 光一

淡海ネットワークセンター運営委員がすすめる

気になる一冊

「忘れられた日本人」

宮本常一著 岩波文庫 660円

もしネットワークという言葉が半世紀前から存在していたなら、宮本常一はまさにその第一人者であったと思われる。

日本列島津々浦々を丹念に歩いて周り、津々浦々のキーパーソンが語る歴史とむらのありように耳を傾けつづけたこと。それらの人々から、「普通の学者はここの話をメモするだけだが、宮本先生はここの知りたいこと役立つことについて丁寧に話してくれる」と言われたように、村々の発展・自立のために何が求められているかをつかむ力。この本の冒頭に触れられているように意思決定のためにファミリーターの役目がいかかに必要かということ。そして、「暗く貧しい」と思われていた日本の村々が実際は明るく、将来性に満ちた要素をもっていることを絶えず語りつづけたこと、ここにちわたしたちが指針とすべきことの多くがこの本に書き著されており、また登場人物の語り口は、読み物としても一級のエンターテインメントである。
（伊東 真吾/滋賀県環境生活協同組合専務理事）

「話を聞かない男、地図が読めない女」

主婦の友社 1,600円

女がよく道に迷うのは？男が話に耳を傾けないのは？その原因がわかれば男と女の違いがわかるのではないかとこの本を手に取りました。

男と女が男脳、女脳といわれる異なる進化をしてきたのは、男は狩りをして女は木の実を採っていた（男は守り、女は育てた）と、それぞれの役割に合わせて発達してきた結果、両者の身体と脳は全く別なものになったということです。それは「男脳・女脳テスト」の結果からも見ると同性の間にもあるそうです。勝手な期待を相手に押しつけるということがストレスのもととわかっていても、男も女も相手に期待してしまいます。「男と女はたまたま同じに地球に住んでいる異星人」と思うことが、無用の衝突を避ける良い方法なのかもしれません。
（遠藤 恵子/学習グループすびか）



淡海ネットワークセンター

（財）淡海文化振興財団

■TEL 520-0801 大津市におの浜1-1-20
■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442
■http://www.biwa.ne.jp/~ohmi-net
■E-mail:ohmi-net@mx.biwa.ne.jp

ご利用日時●月曜日と祝日の翌日を除く毎日（12/29～1/3を除く）
火～金曜日/9:00～19:00 土・日曜日、祝日/9:00～17:00

●淡海ネットワークセンターの情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。
●各地域振興局、県民情報室、県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業会館、陶芸の森、草津コミュニティ支援センター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、さくらホール、滋賀銀行、郵便局（ボランティア貯金窓口）、公民館など



©無断転載を固くお断りいたします。

